

2025年10月2日

ニュース動画をワンストップ作成、多言語化するWEBアプリを共同開発

～報道現場のDX推進 AI利用して多様な視聴者に情報提供へ～

株式会社 毎日放送

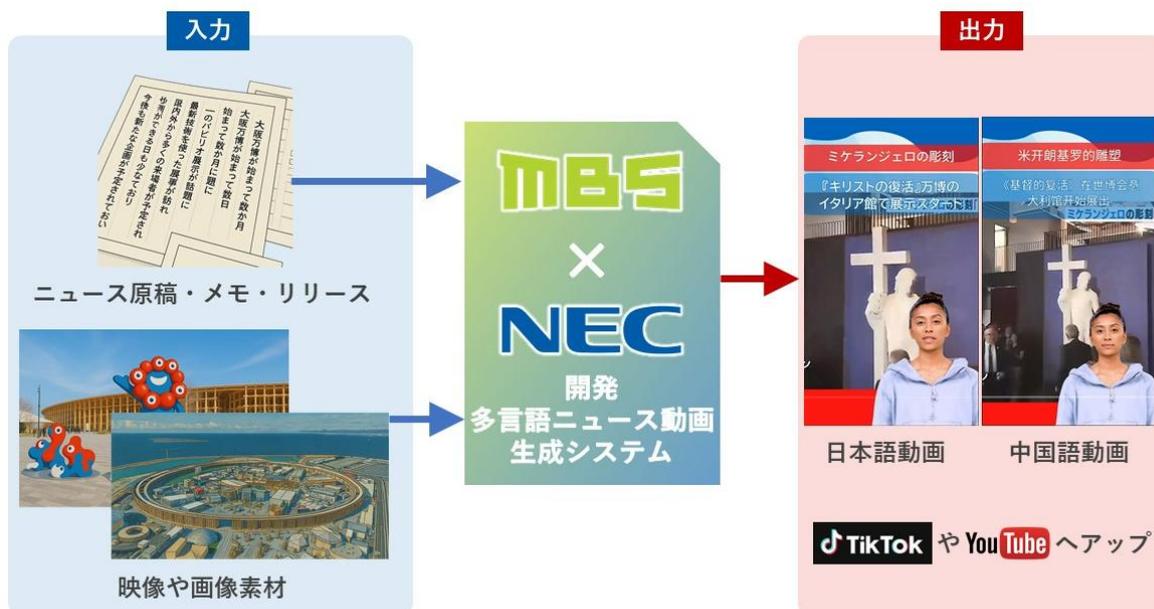
株式会社 毎日放送(本社:大阪市北区、代表取締役社長:虫明 洋一、以下MBS)と日本電気株式会社(本社:東京都港区、代表取締役 執行役員社長 兼 CEO:森田 隆之、以下NEC)は、多言語のニュース動画をワンストップ(一気通貫)で効率的に作成する「AI多言語対応ニュース生成Webアプリ」のプロトタイプ(以下、本アプリ)を共同開発しました。報道現場の業務効率化を推進し、国内外の多様な視聴者へ迅速な情報提供を実現できる可能性があります。

背景

テレビのニュース制作は、記者、アナウンサー、映像編集スタッフ、美術スタッフなど、複数の連携によって支えられています。しかしこのプロセスは、多くの時間と人的リソースを要するため、担当者が短時間でニュース動画を作成でき、質の担保と業務効率化を両立できる動画作成の手段が求められています。加えて関西地方にはインバウンド客や在留外国人が多く、災害情報を含む多言語対応の情報発信の重要性が増しています。

「AI多言語対応ニュース生成WEBアプリ」の概要

本システムの起点は取材に基づく「原稿(=テキスト)」です。テキストからナレーション音声を作成、テロップを生成、背景の映像や画像をWEBアプリ上で選択すれば、動画編集が自動で完了し、担当者1人で作業できます。



動画作成の流れ

1. 原稿の準備

日本語で原稿入力。メモ書きのような簡単な文章でも、AI校正機能でチェック、原稿支援機能を用いてアナウンスに適した原稿へと推敲。

2. 映像の準備

ニュース映像など手元素材を利用できるほか、映像がない場合は複数の画像を選んでスライドショー形式の動画生成も可能。

3. メタ編集

AIによる見出し案・ハッシュタグ・要約文のメタデータを自動生成。

4. 多言語翻訳

編集した各テキストを、指定した複数言語(英語、中国語、韓国語、フランス語)にAI翻訳。

5. 動画生成

翻訳をもとにAIアナウンサーによる音声合成とアバター動画を言語毎に自動で生成。

6. 投稿

動画配信やSNS投稿の際、各言語のハッシュタグや要約文のメタデータ付与。

実証実験と展望

MBSは、本アプリを活用し、「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」をテーマにしたニュース動画を多言語で制作する実証を行いました。その結果、従来はアナウンサーの手配や収録、翻訳、動画編集など多くの専門スタッフと時間が必要だった作業を、担当者1人かつ約10分で実現し、制作現場の大幅な効率化と、迅速な多言語情報発信の可能性を実証しました。

本事例については、11月19日～21日に幕張メッセで開催される「InterBEE」において、NEC主催のオープンセミナーにてご覧いただけます。

以上

本件問い合わせ先:コンプライアンス局広報部